

平成25年度 地域型住宅ブランド化事業 採択グループ

一般社団法人富士山木造住宅協会 「富士山の木を活用した住まい」

「長期」未経験の工務店をサポート
静岡県と連携した独自の取り組みも

今年度も設置した
「チャレンジ枠」

採択グループ発表時
に100戸以上の戸数
が割り振られたのは全
480グループ中、6
グループ。そのうちの
ひとつが、一般社団法
人富士山木造住宅協会
だ。施工工務店数は95
社。静岡県を中心に山
梨県、神奈川県、東京
都の1都3県を供給対
象地域としている。

グループとしての目
標は、長期優良住宅未
経験の工務店に1棟で
も施工してもらうこと。
昨年度は採択された52
戸中、48戸を消化。そ
のうちの16%が長期未
経験の工務店による施
工だった。

未経験の工務店が初
めて長期優良住宅を手
掛けられた理由として
は、繰り返し行ったグ
ループ主催による長期
優良住宅の実務講習会
などに加え、構成員同
士による独自の情報交
流などが活発的に行わ
れたからだという。

情報交流は設計事務
所と工務店、工務店と
工務店など、その組み
合わせは様々。商圏が
重なっていても関係な
く、構成員同士が手を
取り合った結果だった
と遠藤龍一事務局長は
振り返る。

こうした方針に変わ
りはなく、1社でも多
くの工務店が長期優良
住宅を建てられるよう
、今年度も長期未経験
の工務店専用のチャレ
ンジ枠を設けて、グル
ープ全体でサポートし
ていく。

県産材普及のため
静岡県との連携も
この要件は「静岡県
産材を土台・柱・梁・桁
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する



制度と合わせ、3つの
助成制度を活用するこ
とも可能となっている。
そのほか、地域型住
宅「富士山の木を活用
した住まい」の要件は
▽土台・1階柱はJAS
Sに定められた耐久性
区分D1の樹種のうち
特定樹種ヒノキ(富士
山麓周辺)を用いる▽
同協会が取得した住宅
型式性能認定を原則使
用▽耐震等級2以上
もしくは仕様規定によ
る等級3の確保▽安全
な住宅を設計するため
に直下率計算を行う▽
構造用合板は特定被災
地製造品が、静岡県産
材合板を100%使用
(その他の耐力面材は
除く)など。

各情報を集約する
専用WEBサイト
グループ構成員向け
の特徴的な取り組みな
のが、専用WEBサイ
トの活用だ。住宅関連
の事業や施策に関する
地震等の災害時に、迅速
で良質な木造仮設住宅
を建設できるよう「全
日本木造住宅協会(「富
士山木造住宅協会」な
ど)、「静岡県木造建
築工業組合」、「(一社)
日本木造住宅産業協会
静岡県支部」、「(一社)
日本ツーバイフォー建
築協会静岡県支部」の
4団体で、「静岡県木
造仮設住宅建設協
議会」を設立(右図)。
今年4月に静岡県と災
害協定を締結した。4
団体は平時から協力し
合い、災害時等への備
えを進めている。

グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

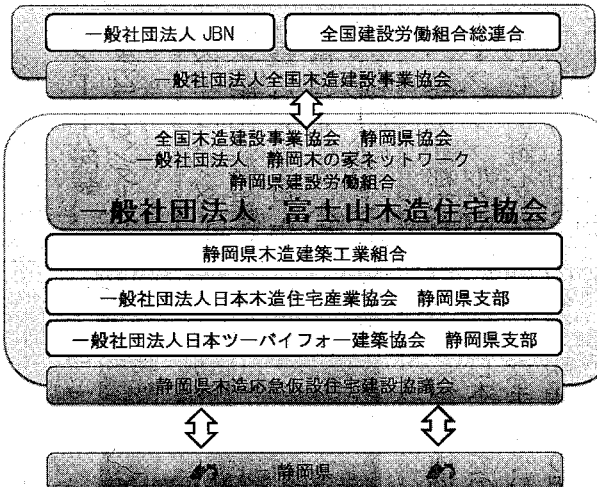
グループ独自の活動
として挙げられるのが、
静岡県との連携だ。同
協会は静岡県がオブ
ザーバーを務める静岡
県地域木造住宅生産体
制強化地域協議会の事
務局。静岡県や各団体
などと連携し、県内の
木造住宅建設にかかわ
る生産体制の強化を
環境保全活動の一環として行う「森を知る森を
楽しむ体験ツアー」の様子。今年度も実施する

グループ概要

グループ名：一般社団法人 富士山木造住宅協会
地域型住宅：富士山の木を活用した住まい
供給対象地域：静岡県、山梨県、神奈川県、東京都
代表者：大瀧功 (株)大瀧建設・静岡市清水区
事務局：一般社団法人富士山木造住宅協会
(静岡県富士市)
結成年月：平成22年4月
配分額：1億1300万円(113戸相当)
採択実績：2回目

グループ構成員

原木供給：2、製材・集成材製造・合板製造：9、
建材流通(木材を扱わない事業者を除く)：2、
プレカット：2、設計：27、施工：95、これら以外
の業種：3



次号11月15日号予告

日本住宅新聞
工務店とともに40年/我が国を代表する工

国産材特

木材利用ポイ

国産材利用普

向けて

工務店経営

各地域で活

地場工務

ピックアップ

地域ブランド住宅、中
流通、リフォームなど
事例を掲載!

次々号11月25日号予告

インタビュコーナー

◆内山 節氏(哲学者)

震災以降の、地
森、住まいに